

# 令和元年度第4回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

## 【要旨】

**日時** 令和元年12月19日(木) 19:00~20:45

**場所** 羽咋市役所 401会議室

### 出席者

- 委員長 : 岩城 和男 (羽咋市社会福祉協議会会長)
- 副委員長 : 三宅 立美 (羽咋市町会長連合会会長)
- 委員 : 松永 義民 (羽咋市商工会理事)
- 三井 孝秀 (はくい市観光協会会長)
- 武田 広 (はくい農業協同組合総務部長)
- 出村 太一 (日本郵便株式会社羽咋千里浜郵便局長)
- 安達 吏和 (羽咋市教育委員会)
- 堀田 泰永 (羽咋市校長会瑞穂小学校校長)
- 中村 史人 (羽咋市銀行会 : のと共栄信用金庫  
ふるさと支援室次長)
- 山田 真広 (株式会社北國新聞社羽咋総局長)
- 林 修二 (株式会社北陸中日新聞羽咋通信局長)
- 新田 聡 (公募委員 : 一般)
- 大門 留美 (公募委員 : 一般)
- 欠席委員 : 大林 浩 (創和テキスタイル株式会社代表取締役社長)
- 春木 謙一郎 (七尾公共職業安定所羽咋出張所)
- 加藤 友彦 (日本政策金融公庫金沢支店支店長)
- 上田 清春 (羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長)
- 酒井 恵美 (羽咋市青年団協議会直前会長)
- 河島 佳江 (羽咋市各種女性団体連絡協議会会長)
- 圓山 晃歩 (株式会社御祓川)
- 松永 一美 (NPO 法人わくわくネットはくい理事)
- オブザーバー : 手持 佳也 (北陸財務局総務課長)
- 綿木 浩三 (石川県中能登総合事務所所長)
- アドバイザー : 高山 純一 (国立大学法人金沢大学教授)
- 平子 紘平 (国立大学法人金沢大学特任助教)
- 市側出席者 : 今井 史也 (市参事兼産業建設部長)
- 若狭 義高 (市参事兼市民福祉部長)
- 川口 哲治 (総務部長兼羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局長)

西井 健一	(教育次長兼学校教育課長)
松田 宏明	(学校教育学務担当課長)
山本 裕一	(企画財政課長)
清水 吉朗	(農林水産課長)
池田 博明	(商工観光課長)
奥 利明	(地域整備課長)
和田 正美	(健康福祉課長)
中島 一明	(6次産業創生室長)
和田 美紀	(総務課参事)
松田 義人	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局局長補佐)
見附 敦史	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局係長)
石本 哲也	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)
中瀬 莉奈	(羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)

会議傍聴者 : なし

## 1. 開会

## 2. 委員長あいさつ

(略)

## 3. 協議事項

第2期がんばる羽咋創生総合戦略(案)について

関連資料【資料1】【資料2】【資料3】【別紙1】

(質疑①) B委員:委員の意見を取り入れていないように感じる。戦略P1、①本市の特徴と魅力に関して、観光資源として神子原地区の棚田等とあるが、重要文化財だから気多大社や妙成寺に来るわけではない。また、道の駅それ自体のために来る人は少ない。例えば、能登や金沢に来て、道の駅に来る人はいるが、道の駅が目的ではない。観光協会では、気多大社へ初詣に来た人を道の駅に、妙成寺のイベントに来た人を道の駅に行ってもらいたい。そのためには、市内で連携していかないとダメだと思う。

千里浜インターから人の流れをつくるということだが、柴垣のサーフィン等を

体験する際は、柳田インターから人の流れをつくる方が良い。柳田インターからだど気多大社や妙成寺に行く際も交通の便が良い。非常に強い戦略になる。連携をより上手くできないかと思う。宝物を活用していないような印象を受ける。

(応 答) 総務部長：観光分野の魅力付けに関して、連携するべきだということですが、具体的に例えば、P 1 9 の具体的な事業の中に、「道の駅のと千里浜と市の文化財をマッチングさせたイベントの発信」と記載は、委員の方からいただいた意見を盛り込んでいる。市にある観光施設を連携させながら、さらに相乗効果を上げていきたい。

(質疑②) B委員：第6次総合計画と総合戦略はどういう関係なのか。

(応 答) 総務部長：総合計画は、今年度と来年度で策定する令和3年度から10年間の市のグランドデザインを示すものである。総合計画は市のすべての分野を含んだ一番上位の計画と位置づけており、総合戦略においては、その下位の個別の計画という位置づけである。総合計画の直下にある総合戦略は、人口減少に特化した内容であるが、子育て、教育、施設整備、観光、雇用等、様々な分野にまたがる総合的な計画である。総合戦略の期間は5年間のため、総合計画のように長期的な計画ではなく、様々な分野における人口減少対策、あるいは、人口減少社会の対応を盛り込んで、この5年間でしっかり対策を取っていくものになる。

(質疑③) B委員：SDGsを推しているが、国がSDGsを推進しているから、戦略に盛り込まないといけないのか。

(応 答) 総務部長：SDGsの考え方は、国連や政府で、推し進めていくという考えを持っている。SDGsという言葉が広まってきたが、これまでも行政や民間の事業所でもこのような取組みをしてきており、改めて、ワードを掲げて発信しているものだと考えている。SDGsの理念に沿って、経済、社会、環境のバランスを整えることは、非常に大切であり、これからのまちづくりに必要である。その普及のためにも小学生や中学生の子どもたちに、SDGsの考え方を学んでもらい、事業者の方々と一緒になって理解していくことからまず始めたい。

(意見①) B委員：インバウンド関係で、七尾市は市から県に職員を出向させていると聞く。国際観光課に出向させて、インバウンドについて勉強させているようである。羽咋市でも県に出向させて勉強させてほしい。ドローン等、新しいものの視点を持つのはいいが、そこにとらわれてしまって、逆に戦略がぶれないか。新しい技術や言葉が、ファッションのようになってしまっているので、注意した方がいい。観光にしても旅行会社が金沢には来ているのに羽咋市に来ない。積極的に羽咋市から観光分野にアプローチしてほしい。

(質疑④) T委員：前回、ディフェンス的な施策が多くて、内向きだという発言をした。今回、基本目標Ⅰ、Ⅱで、少し外向きの施策が入ったのは良かったと思う。人口減少対策として、様々な施策が決まってくるのだと思うが、本当に人口を増やそうと思ったら、市民や市外の方に分かりやすく羽咋市はこんなところだよというのが伝わらないと。細かい数字や助成金がどれだけ出たとしても、あまり大きな差にならない気がする。イメージで決まってしまうと思う。例えば、関東で言えば湘南。イメージがぱっと浮かぶ。マリンスポーツが盛んで、どういう人が住んでいて、どういう暮らしを楽しんでいるのかイメージが浮かぶ。「がんばる羽咋創生総合戦略」を通じて、羽咋市で暮らすというのはこういうイメージだとわかりやすく市内や市外の人に表す方法はないのか。一つ一つの施策は大事だと思うが、全体を通して見える形をどうやって示したらいいのかが大事な課題だと思う。

(応 答) 総務部長：羽咋とはこういう町だとしっかりと理解してもらえるまちづくりをすることは市としても重要だと思っている。市の方では、自然栽培の聖地であることや、千里浜なぎさドライブウェイ、文化財等のコンテンツを生かしながら、これから新しいものを新たに作るのではなくて、今あるものに磨きをかけて、情報発信をしていくような仕組みが重要だと思っている。外から来る人が、羽咋市に来れば何かチャレンジできるというような制度、仕組み、情報発信を少しずつではあるが、着実に進めていきたい。市内外の方に羽咋市の魅力を知ってもらうように頑張っていきたい。ただ、具体的に「これをやればこうなる」という状況にはなっていないため、市民の皆様と相談し、協力しながら少しでも前進をしていきたい。

(質疑⑤) A委員：戦略P24の数値目標3番目の「経済的支援の充実を希望する子育て世帯の割合」というのは、どういう数字なのか説明していただきたい。

(応 答) 健康福祉課長：「子ども子育て支援事業計画」を策定するにあたり、未就学児を持つ保護者の方に子育て支援のニーズ調査を行った。一つの項目に、「羽咋市にどのような子育て支援の充実を図ってほしいか」という項目があり、その項目内の「子育てに係る経済的支援の充実」という項目のアンケート結果の割合を戦略に記載している。「経済的支援の充実を希望する子育て世帯の割合」が減れば経済的支援の充実がなされているという指標になる。

(質疑⑥) A委員：戦略P28の基本目標Ⅲ、5安心できる教育環境の充実、(1)きめ細やかな教育・学習機会の充実に関して、学校図書について、子どもから、学校の図書館の本がすごく古い、本によっては上巻しかないし、結論がないものを読んでもしょうがないと言われたことがある。学校によるかもしれないが、図書の充実を

図っていただきたい。

(応 答) 学校教育学務担当課長：学校図書について、羽咋市内には司書が1名、事務員が4名配置されており、業務を兼務している状況である。司書か事務員をなんとか各校1名配置できるように今年度も予算要求をして、子どもたちの図書の整備に関して、今後もきちんと行っていきたい。また、毎年、子どもたち、先生方のニーズを取り入れながら、司書の方を中心に事務員の方と相談して、新刊本を入荷している。たくさんの本を入荷するというのは難しいが、毎年新しい本を入荷している。今後も整備していきたいと考えている。

(質疑⑦) A委員：戦略P30の基本目標Ⅳ、1住環境の整備推進、(2)安価な住居の提供、KPI②新規公営住宅の整備箇所数ついて、純粋に増やすこともいいが、人口が減っていく中で、スクラップアンドビルドも必要なのでは。1個増やすなら1個減らすことが必要だと思う。減らす箇所の地域として、有効利用しやすいところを壊して、新しく作るような計画はないのか。

(応 答) 市参事：行政が住宅施策として住宅をどのくらい用意する必要があるかという計画がある。その計画では羽咋市は住宅が若干足りていないという状況になっている。今後の人口予測を踏まえても、特に低所得者向けの住居を行政が手当するという点では、まだ足りていない状況にある。市営と県営があるが、低所得者向けの住居は「はなます団地」の1箇所しかなく、建物も老朽化しており、大規模改修も難しいという状況のため、近い将来それにとって代わるものが必要となる。また、定住促進住宅として御坊山と島出があるが、市が単独で取得しているものである。家賃設定も自由ということで、御坊山は少し低めの家賃で、島出は子育て向けの住宅としている。どちらにしても数としては若干足りず、今後整備が必要。島出の方で24区画分譲して、今13区画分譲しているが、それは以前あった「ひばりヶ丘住宅」を廃止して現在分譲しているため、その代わりに住宅も整備していく必要がある。今ある住宅の設備を改修するとともに、新たに1箇所は整備していきたいという目標を掲げたものである。

(質疑⑧) M委員：前日も触れましたが、婚姻率に関してポジティブな方向で捉えるようにしていただきたい。市内のお年寄りと接するとほぼ100%結婚を勧められる。こういう状況では、深刻に捉える人は生きづらくなるので、市や国は子どもが増えればそれでいいと考える人もいるかもしれないが、結婚のことを言われるのが嫌だと感じる人もいる時代だと思うので、市民向けに啓蒙して伝えていかないと。「何で結婚しないのか」と平気で聞く人もいるが、結婚を望まない人もいるし、LGBTの方もいるわけで、婚姻率はポジティブな方向で捉えてほしい。結婚しないからといって、羽咋市民としての義務を果たしていないというような

ことにして欲しくない。即効性がある話ではないし、行政から働きかけて市民の考えを改めるのは難しいかもしれないが、市としても啓蒙活動等を行った方が良いと思う。

(応 答) 総務部長：行政として結婚したくない人にまで無理に結婚させようとは思っていない。結婚したい人に対して、支援や援助の手を差し伸べて、結婚したい人の夢が叶うようにお手伝いをしていきたい。強制的に結婚しなさいというような進め方はすべきではないと感じている。市民の方を含めて広く啓蒙していくことはなかなか難しいが、少しずつ新しい考えやスタイルがあるということが皆さんわかってきていると思うので、市としても努力していく。

(質疑⑨) T委員：P 3 2 の基本目標Ⅳ、4 都市機能の集積化と再編、(2)まちなかの再生促進にコンパクトシティという記載があるが、市のどこかを居住地域として指定して、そこに人や施設を集中するというもので、どこか1箇所、あるいは、多極的にそのような場所を設けるのか。そこから外れた地域の補助等はあるのか。

(応 答) 市参事：コンパクトシティの考えは、今後人口減少が続く社会、地域において、行政、金融、医療等、暮らしていくために必要な機能を守るためにどのようなまちづくりを進めればいいのかということで、コンパクトシティ、最近では、コンパクトシティ+ネットワークだと言われている。その背景には、生活に必要な都市機能を維持していくためには、ある程度人々が集まった地域が必要であるという考えがある。そして、その地域で市内の人が利用しやすい地域内の交通網を作って、地域内で利用することで、市内で生活しやすくなる。それがコンパクトシティである。羽咋市の現状として、そういった機能が羽咋駅中心に集まっている。羽咋駅周辺にある機能を今後維持するために、様々な取組みをしていくことがコンパクトシティにつながると考えている。無理矢理人を中心市街地に移動させる、中心市街地以外の住環境を整備しないというわけではなく、生活しやすい環境をつくっていくものである。何か施設等を作るときにまず先に中心市街地を検討してから、他の地域の方が良いのか考えていき、ある程度機能や人口が集中している区域を維持していこうという考えである。

(意見②) N委員：少子化対策に関連して、石川県出身で羽咋市とも関係がある社会学者の赤川学氏の書籍を読んでもみるのもいいのでは。

(意見③) B委員：観光に関して、市だけで抱えるのではなく、観光協会と相談してほしい。なんとか羽咋に人を呼ぶために観光協会は命がけで考えている。是非相談してほしい。

(質疑⑩) B委員：私は羽咋がすごく好きで、魚や美味しいお米もとれるし、環境を良くしていけば、東京に行った人も帰ってくると思う。新しい事よりも今あるいい環境を保って、おのずと東京からこっちに戻ってくるような環境づくり、住みよい環境を整えていってほしい。羽咋は本当にいいところだと世界の人に分かるようにしていただきたい。

(応 答) 商工観光課長：現状維持は難しいとは思いながらも、新しく羽咋に来た方、羽咋にずっと住んでいる方とも上手くやっていきたい。海、山、邑知潟等の大事なふるさとを守っていきたくて考えている。皆様からのご意見、生活環境の維持等もご提言いただきながら、進めていきたい。温故知新として、羽咋はいいところだと観光を通じてPRしていければと思っている。

(質疑⑪) G委員：戦略P28の基本目標Ⅲ、5安心できる教育環境の充実、(1)きめ細やかな教育・学習機会の充実、KPIに関して、①学校図書の間年平均貸出数120冊という目標が掲げられており、これは子どもたちが努力して達成する数字であるが、まかり間違っても子どもたちに「君たちの努力が足りないからだ」という風にならないでほしい。また、図書室の本が諸々と欠けていることに関して、買った時は上下セットで揃っていたと思うので、本の状態に気がついてフォローできる環境にしていただきたい。本を新しく買い直す、借りた人は必ず返却する取組みができるように、図書事務員さんの充実した環境整備と積極的な読書環境を整えること、大人から読書をする事の楽しさを伝えていけるような環境づくりをしていただければよいと考える。

最近、一人の人間が本を読んで、自分の中だけでおもしろかったと思うような自己完結型の読書の仕方ではなくて、グループで読む、ビブリオバトルのようにプレゼンしてどの本が読みたかったか争うといったような競技形式の読書の仕方が出てきている。子どもたちが本を読むような楽しさを覚えるような読書環境整備をお願いします。

(応 答) 学校教育学務担当課長：図書事務員を何とか市内8校5名という状況から、各校1名配置できるように努力していきたい。授業でも図書室を活用したり、コスモアイルの羽咋図書館に行ったり、学校の方でもできるかぎり子どもたちにより良い読書環境を与えるように、こちらの方からも指導していきたい。

(質疑⑫) U委員：戦略P37の基本目標Ⅴ、4産官学連携による次世代に対応した新事業の創出に関して、IoT、AI、ICT等、新しい技術が記載してあるが、これを活用した事業に関して具体的なことは進められているのか。

(応 答) 総務部長：IoT、AI等は、観光面、河川の情報等の防災面に広く活用していきたい。また、行政業務の効率化という面でも働き方改革にも活用することを考

えている。

(質疑⑬) U委員：I o T、A I、I C T等、新しい技術を活用した事業を具体的にどこに依頼するか決まっているのか。

(応 答) 総務部長：民間の事業者や金沢大学と研究を進めてまいりましたので、この戦略についても引き続き、金沢大学等の研究機関と一緒に共同研究をしながら羽咋市の活性化にむけて進めていきたい。

#### 4. 講評

(1) オブザーバー：北陸財務局 手持 佳也 総務課長

4回の会議にわたって皆様ご苦勞様でした。この後も修正があると思いますが、戦略の骨子はこういう形でできるのだらうと思います。羽咋市さんの方から言いにくいと思うので、私の方から申し上げますと、行政にできることには限界があるなど。なるべく多くの市民の方を巻き込むことを考えていく必要があるのかなと。延長線ですけど、ある委員の方からも決意表明があったように、せつかく一緒に考えていただいたので、今日ご参加の皆様も是非もう一步踏み込んで、市と協力しながら様々なことに取り組んでいただければと思います。

(2) オブザーバー：石川県中能登総合事務所 綿木 浩三 所長

皆様お疲れ様です。前回の素案より増えて、200ほどになっているかなと思います。充実してきているのだなと思います。前回の会議で私の方からお話ししましたが、横断的に展開するテーマが4つございまして、そのテーマを効果検証するというのであれば、少し工夫がいるのかなということを申し上げました。今回の基本目標の中に、女性に関する数値目標が入っていました。あるいは、女性に関する目標があるものについても、よりふさわしいものになってきたなと思います。それでも他に基本目標の中に女性に関する数値目標が入っていない目標があります。ここに女性に関する数値目標入れることはできないのか。基本方針の先頭に「女性に魅力ある町づくり」というのが挙げられているので。一期の戦略の中でも、2期ではこれが要になるという評価結果を出されていまして、要になるものを施策の数値目標の中に挙げていただければいいのかなと。ただ、別に挙げていなくても具体的な施策の中に、目標の中にちりばめられていますので、それを評価するというのも一つの手立てかなと思いました。

(3) アドバイザー：国立大学法人金沢大学 平子紘平 特任助教

お疲れ様でございました。皆さん積極的に意見をおっしゃっていて、今後も知識豊富な主体的な市民の方からどんどん意見を聞いていただければいいと思います。まき込んでいく



というか、せつかくなのでみんなでやるということが重要なのではないかなと。他の委員さんも様々なポジションからご意見をお持ちいただいていると思うので、委員会以外でも他でもどんどん交流していただければ、より良くなると今日、第一に思いました。

二つ目に、結婚を促すことはハラスメントではないかという意見がありました。国によって、国の形とか資源とか生産性とか文化とか宗教観も全然違う中で、日本というのは、今の少子高齢化、とりあえず人口はなんとかしないといけない状況にあります。それだけではなんとかありませんが、一つの重要な柱だと思いますので、手を打っていくことは必要なかなと。羽咋市も頑張っていると思いますが、他の自治体を見てみると、南砺市では婚活イベントを頑張っていっちゃいます。南砺市の場合は、婚活イベントに年間780人集めていて、その後、出産まで至った方が81人でいるそうです。政策にも結びついているし、人口増に結びついている。他の自治体のいいところを気に入っていただいたりすると、よいのかなと思ったりします。不妊治療に関しても、センシティブなところではありますが、南砺市は踏み込んで数字を出していっちゃっています。支援した結果、出産に結びついた方が5年間で103人いっちゃったそうです。望まない方に促すことはだめですが、望んでいる方には支援をしっかりしてさしあげて、南砺市は人口5万切っていますが、羽咋市の2.5倍くらいですから、羽咋市でも3分の1くらいはできるのかなと。実際に数字を挙げていただければいいかなと思いました。

全体的なことではないのですが、南砺市や加賀市も変わったことをしています。トップセールスと言いますか、市長、副市長、部長等の、立場の偉い方、上層部の方が、直接外部と対応しているそうです。羽咋市は合併もしていないですし、人が少なく、アップアップなのはわかりますが、トップセールスなどを行うと、国も本気だと感じて話にはいってきける。交流人口に関しても、南砺市では「貢献市民」としての枠組みを設け、南砺市に強い愛着をもって、集いや活動に参加する人を5年で0人から800人に増やす取組みをしています。意見の活発さは羽咋市も負けてないので、引き続きがんばっていただきたいと思いません。

#### (4) アドバイザー：国立大学法人金沢大学大学院 高山純一 教授

いい町づくりをしているところは、色々な分野に核になるような人が必ずいます。一人だけではだめですが、核になるような人を発掘して、支援して、育てていくかが、いい町づくりをする根本ではないかなと思います。

特に観光戦略っていうのは交流人口増やすわけですから、広域的な連携は不可欠です。勿論、羽咋市の中での連携も重要ですが、羽咋市内だけではなく、金沢や能登と上手く連携しながら人を呼び込む。能登へはすごく人が来ている。金沢にはもっと来ている。そういう人たちが羽咋を素通りしているわけですよ。天気が良くて千里浜が穏やかであれば、楽しんでもらえますけど、1年にどれくらい可能でしょうか。千里浜だけにはなかなか頼れない。いい素材は情報発信して、磨くことが非常に大事です。それを常に心してやる。

SDGs の話題がでましたけど、SDGs には17の目標がありますから、何か施策すれば何か関わるわけです。非常に良く関わるものと、少し関わるものがあると思うのですが、非常によく関わるもの、間違いなく関わるものをSDGsに選定すればいいと思います。

たくさんの施策があるので5年間の目標のメリハリをつけたらいいのではないかなと。どれも一生懸命にやるという印象を受けますが、重点的にこれとこれは確実にやる、成果はこれだけ上げるという取組みの姿勢も大事だと思います。

学校の図書の問題については、様々な解決の仕方があります。図書室の本を増やすというのも予算の問題やお金がかかりますし、市民や県民に図書の寄贈を募ることも一つの解決策なのかなと。自分の部屋の蔵書を断捨離しようという方もいると思います。古本屋に売るというよりも市に寄付してほしいとPRすれば集まるのではないのでしょうか。8つの学校で余ってしまった場合は、廃品として売ればいい。図書そのもの、新しいものが足りないと言うのであれば、現物でご寄付いただくのがいいのではないかと思います。

## 5. その他（今後の予定、事務連絡等）

【別紙2】参照

## 6. 閉会